

まちづくりの地域情報紙

e-NET 6500
EIGENJI



サギソウの飛姿美
(コミュニティセンターで撮影)

情報紙 第99号 2021年11月 1日

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内
IP：0505-802-9336 <http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/> E-mail：e-net6500@e-omi.ne.jp

まちの話題



コミセンに可愛いサギソウ並ぶ 癒しになればと、坪倉和雄さん



和南町の坪倉和雄さんは、毎年、コミュニティセンターや福祉施設などに自分が育てたサギソウや菊などを観賞用に届けておられます。

サギソウは鷺（サギ）が羽根を広げたような優雅な花に魅せられて、約20年前に小鉢を買ったのが始まりで、毎年植え替えをして増やしてこられました。菊は約30年前から始め、年2回植え替えをし、現在80~100鉢育てておられます。

坪倉さんは「害虫の駆除や台風の対策、水やりなど苦労も多いけど、美しく咲いた花や新芽を見るとまた頑張ろうと思う。植物も愛情を持って育てるとちゃんと答えてくれます。花を見て少しでも心を癒していただければ嬉しい」と話しておられました。



陸上100m走で近畿大会出場 山川なつみさん(永源寺中3年)



永源寺中学校3年生の山川なつみさん（山上町）は、7月27日に行われた滋賀県中学校夏季総合体育大会の陸上競技100m走で2位（タイム：12秒73）の好成績で入賞し8月6日に神戸市で行われた第70回近畿中

学校総合体育大会に出場されました。

幼稚園の頃から走ることが大好きで、小学4年生の時に市スポーツ少年団（陸上競技）に入団。中学生になってからは市内の陸上クラブに所属し、週5日間の練習で身体を鍛え、技を磨いておられます。

山川さんは、「陸上競技を続けてきて忍耐力がついたと思います。練習を休みたい日や辛いことがあっても走るとスーッと心が晴れます」と、笑顔で話してくれました。

将来はスポーツに関わる仕事がしたいそうで、体育の先生や陸上部の顧問になるのが夢だそうです。是非、実現してほしいですね。



コロナを乗り越え、楽しい旅へ！
エイトク観光バス・エイトク旅行企画

永源寺タクシー株式会社

TEL 0748 - 27 - 1151



永源寺中・聖徳中 合同ソフトボール部 最後の大会で近畿大会出場の有終飾る

2年前の春、待望の新入生6人が入部。永中単独チームができる。未経験者ばかりでの春の公式戦。なんと37対0。3回コールド負け。(当然!? 県下最弱!?)。夏の大会も、ブロックからは出られず、毎日を練習に明け暮れる努力の日々。来年こそは、県大会ベスト4を目指す

誓い合うが、年が明けコロナ。4月5月学校閉鎖。春・夏の大会は開催されず、3年生は東近江市の大会で最後の大会となりました。残った6人(ラストプリンセ



ス)は、聖徳中学校との合同チームとして新たな道へ。練習はそれぞれの学校で行い、土日には合同で練習試合。昨年の秋の大会、まだまだ実力とチームワークがぎこちないため、ブロック大会では、いい成績が出せず完敗。

今年春の大会、ブロックを勝ち抜けて県大会出場。少しずつチームワークが充実、実力が発揮できるようになりましたが、強豪草津の老上中学校に負け1回戦敗退。打倒老上”を合言葉にピッチングマシーンで速い球対策。このころから全員の実力が上がり、体も大きくなり、落ち着き感が出てきました。

夏の大会、負ければ最後の試合。彼女たちの思いが躍動する。ブロック大会優勝。県大会1回戦老上戦、逆転で勝利。その後、勝ち進み準決勝逆転勝ち。決勝にいたっては、逆転サヨナラの勝利で真紅の優勝旗を手にしました。

県代表として近畿大会に出場。残念ながら1回戦で敗退しましたが、青野中学校から続くソフトボール部のOGの皆さまの期待に少しならずとも応えら



れたかもしれ
ません。
合同チーム
として、環境
を整えていた
だいた聖徳中
の足立先生、
大島先生、永
源寺中の石井
先生、黒川先生、
そして、温か
く迎え入れてくれた聖徳中ソ
フトボール部の皆さんに心から感
謝申し上げます。

最初は、ぎこちなかったチ
ームも、1年間でそれぞれのゆる
べきことを考え、行動できる素
晴らしいチームとなりました。
「伝統は継承なくしては生ま
れない」最後のその瞬間を迎え、
少し寂寥感を持たざるを得ない
筆者でありましたが、彼女たち
には、かけがえのない瞬間(と

【最後の大会の戦績】

- ブロック大会
- 1回戦 対竜王中 10-1
- 2回戦 対能登川中 18-2
- 準決勝 対日枝中・甲西北中 7-4
- 決勝 対土山中・城山中 9-8
- 県大会
- 1回戦 対老上中 10-3
- 準々決勝 対長浜西中・浅井中 4-2
- 準決勝 対高穂中 7-5
- 決勝 対瀬田中 6-5
- 近畿大会
- 1回戦 対広陵中・平野中(兵庫) 0-9



き)であったこと、また、成長
とともに心も強くなったこと、
何よりもラストプリンセスであ
ったことを誇りに思ってもらい
たいと感じています。伝統の灯
は、必ずプリンセスたちの心の中
に光をもたらし、これからの
人生の大きな礎となることを期
待します。

【追記】近畿大会の記念にとパ
ンフレットを購入。歴代の優勝
チーム名が第25回から載って
いました。すると第25回、第27
回に、青野(滋賀)の文字。絶
句。歓喜。安堵。70年に及び歴
史が、ここに呼び寄せてもらっ
たかと感じました。

最後にご支援、ご声援いただ
いたたくさんの方々に深くお礼
申し上げます。ありがとうございます
でした。(山上町 幸野武彦)

「清流の日」一斉清掃を終えて

愛知川清流会

8月29日、清流の日一斉清掃が行われ、愛知川清流会の会員45人が参加。午前中、愛知川河川敷の清掃活動に汗を流されました。



愛知川は、鈴鹿十座の最高峰である御池岳付近に源を発し、長さ48キロを経て琵琶湖に注ぐ1級河川です。私たちの子ども頃は河川に草木は無く、石が白くキラキラと輝いて、清流が流れアユが飛び跳ねていました。年月の経過と共に荒廃が進む愛知川を嘆き「昔の愛知川を取り

戻そう」と田中進氏が呼び掛け70名の有志で平成25年6月に発足されました。

活動として、河川内や護岸の草木伐採作業をはじめ啓発看板の設置やモニタリング調査の実施として水生生物調査、石の種類調査、石に着く付着珪藻類調査、透明度調査、環境DNA調査、地域の子どもたちに体験学習

もたちに体験学習の場の提供等会員一丸となり遂行しています。発足時から毎年8月最終の日曜日に「清流の日」と称して実施しています。河

川の清掃活動ですが、初年度は河川がゴミ捨て場の様相を呈して不法投棄された大型資源ごみ等で2・4トンの回収量でしたが、近年は1割に減少いたしました。これは皆様の地域環境に対する意識の向上と愛知川清流会の皆様の日頃の成果だと思えます。しかしながら愛知川の解決すべき

課題が3点あります。

1 点目は瀬切れです。琵琶湖まで水が届いていないために琵琶湖から天然アユが遡上できない問題です。2 点目は濁水期間の長期化です。大雨が発生すると1か月余りの濁水となり、泥水では岩や砂礫が洗えずに魚の餌である珪藻類が生育できない問題です。3 点目は河床低下とアーマー化です。河床低下により護岸基礎部が洗え、災害発生の危険度が増すと共にアーマー化（砂礫内に泥が入ること）により水生生物の産卵及び生息が出来なくなる問題です。

この3点の課題を解決し、清流復活に向けて関係機関が協議する場「愛知川内水面漁業振興協議会」が発足され現在進行中です。私たち愛知川清流会は、今後も夢と希望を描き活動していきます。

愛知川清流会会長

川戸英司

編・集・後・記

令和4年が聖徳太子の没後1400年に当たるのに合わせ、「近江の聖徳太子魅力発信事業」が東近江市を含む2市2町で実施されています。この地域で聖徳太子という、「聖徳」の文字から八日市をイメージしますが、我が永源寺地区の永昌寺(箕川町)、造福寺(石谷町)、長寿寺(池之脇町)も聖徳太子に所縁がある寺院とされています。永昌寺は御本尊が太子の作とされ、造福寺と長寿寺は太子の開基によると伝えられています。「和を以て貴しとなす」は、聖徳太子が制定した17条憲法の中の一文ですが、「和の精神をもって、わだかまりなく話し合うことが大切である」と教えられています。自分の胸に手を当ててみると、チクリと感じるものがあります。▽新型コロナウイルスの感染拡大で、いろんなことが変わりつつあります。コミュニケーションの取り方もその一つです。スマートフォンのおかげで直接会えなくても繋がりを保つことができます。半面、ますます「そば屋の出前」が使えない世知辛い世の中になりつつあります。ネット会議も大変便利ですが、何となく味気ない。でも、これが標準になる日も近いのかもしれない。▽一万円札の聖徳太子を懐かしむ人も少数派になりつつありますが、こんな時代に聖徳太子が現れたら、何を唱えられるでしょうか。SNSの正しい使い方を提案しながら、「和を以て貴しとなす」とおっしゃるのかもしれない。